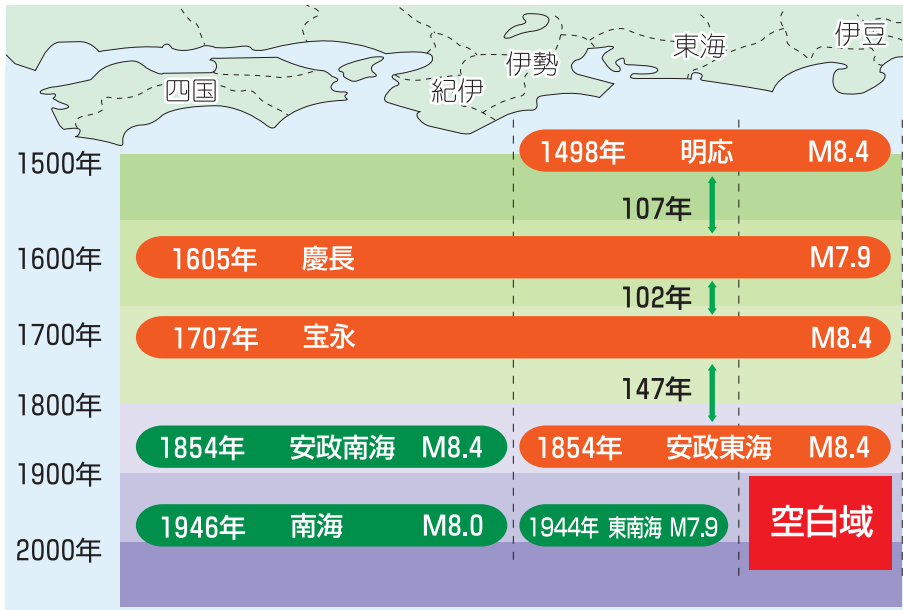


地震災害の過去の教訓

備えよう 知ってるだけでは もう遅い

「中学生の部 最優秀標語」

過去の主な地震



「歴史は
くり返す!!」



過去を振り返ってみると、日本列島の太平洋側ではプレートの潜り込みによる地震が、100年～150年周期で起こっていることがわかりました。東海地震の震源となる駿河湾から御前崎沖では、1854年の安政東海地震以来約150年にわたって大地震がなく、空白域となっています。地震のエネルギーが蓄積され、プレートの潜り込みによる歪みが限界に達しているといわれています。近々、東海地方に大きな地震が起こるとい根拠は、ここにあります。

昭和の東南海地震(海溝型地震)と兵庫県南部地震(内陸活断層型地震)

明治以後大きな被害のあった地震

昭和の東南海地震

東海道沖・・・海溝型地震

- ◆1944年(昭和19年)12月7日 13時36分頃発生M7.9
- ◆愛知・静岡・三重などで死者・行方不明者1,223人
- ◆住家全壊17,559棟、半壊36,520棟、流失3,129棟
- ◆各地に津波襲来(熊野灘沿岸6～8メートル、遠州灘沿岸1～2メートル)
- ◆紀伊半島東岸地盤沈下



兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)

内陸活断層(直下型)地震



1995年(平成7年)1月17日 早朝発生M7.3

- ◆多くの木造家屋、コンクリートの建物、高速道路、鉄道線路などが崩壊
- ◆死者6,434人、行方不明3人、負傷者4万人以上
- ◆死者の80%以上が家屋等の倒壊による圧死、約10%が焼死
- ◆住家 全半壊24万戸以上、住家 全半焼6千以上